

キヤノン株式会社

メディカルグループ事業説明会

2025年3月24日

副社長執行役員 メディカルグループ管掌

瀧口 登志夫

Canon

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。
そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

本日の内容

1. キヤノンにおけるメディカル事業の位置づけ
2. 環境認識
3. 2025年収益性改善の見通し
4. 2026年以降の取り組み・戦略

本日の内容

1. キヤノンにおけるメディカル事業の位置づけ
2. 環境認識
3. 2025年収益性改善の見通し
4. 2026年以降の取り組み・戦略

キヤノン創業から東芝メディカル買収、組織統合へ

キヤノンのメディカル事業は第三段階へ

キヤノンのメディカル事業1.0

- 1940年に国産初のレントゲン撮影用カメラを開発

キヤノンのメディカル事業2.0

- 2016年に東芝のメディカルシステム事業買収

キヤノンのメディカル事業3.0

- 2024年 メディカル事業革新委員会の立ち上げ
- 2026年 キヤノンIncとキヤノンメディカルシステムズの一体化

メディカルグループの目指す方向 ～プレジジョン・メディシンへの貢献～

現在の事業参入領域

検査・診断

体外診断・バイオ

検体検査



各種試薬



病理診断

リキッドバイオプシ

遺伝子検査

再生医療



収集・統合



加工・提供

診療支援システム

読影支援システム

融合

進化の軸

AI

誰でも簡単に、素早く、よりきれいに

形態診断

動態診断

機能診断

次世代画像診断機器
PCCT



発展の軸

AI

立位CT



CT：超高精細胸部画像

CT：心臓動態画像

MR：脳神経走行画像

画像診断・ヘルスケアIT

事業拡大領域

個別化医療をサポートする
ソリューション

Clinical Decision
Support の実現

ビックデータ解析

クラウドプラットフォーム

遠隔診断サポート

自家iPS細胞の製造

再生医療プラットフォーム



プレジジョン・メディシン

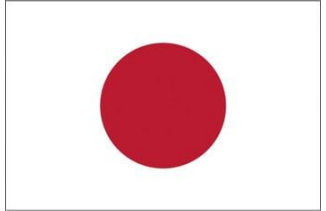
個別化医療

- ・ 投薬治療
- ・ 外科治療
- ・ 細胞治療
- ・ 再生医療

本日の内容

1. キヤノンにおけるメディカル事業の位置づけ
- 2. 環境認識**
3. 2025年収益性改善の見通し
4. 2026年以降の取り組み・戦略

日本の環境認識



- 2040年に向けた人口動態・医療需要の変化
 - ✓ 高齢化の進展と医療ニーズの拡大
 - ✓ 疾病構造の変化と予防医療の重要性

- 病院経営環境

- 市場トレンド・業界動向
 - ✓ 医療経営・コスト効率化への要求
 - ✓ AI活用の推進

中国の環境認識



- 反腐敗運動による導入抑制の影響は一定程度解消
- 中国経済の弱さは継続
- ヘルスケア分野は政府支援や高齢化需要により中長期的には比較的堅調
- 集中購買
- 国産優遇（国産の定義厳格化）

米国の環境認識



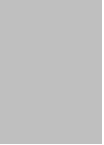
- “バリュー・ベースド・ヘルスケア”※への移行
- 大規模医療ネットワーク（Integrated Delivery Network）
- 複雑な公的保険（メディケア・メディケイド）および民間保険の枠組み
- 画像診断機器市場は今後も安定成長見込み
- CT・MRI等の高性能機器、ポータブル超音波・デジタルX線に需要

※）医療の成果（アウトカム）を重視して、医療費を削減しながらヘルスケアを改善する取り組み

本日の内容

1. キヤノンにおけるメディカル事業の位置づけ
2. 環境認識
- 3. 2025年収益性改善の見通し**
4. 2026年以降の取り組み・戦略

2025年の収益性改善の見通し

営業利益（単位：億円）		営業利益 の増加		ROS改善 影響 %	施策等
2024年 営業利益実績				247	ROS 4.3%
トップラインの成長 による営業利益増	グローバルサービス 事業改革				お客様のオペレーションの効率化、 サービスソリューションの提供
	製品力・販売力強化				顧客価値最大化を実現した新製品の投入 CHCUを中心とした米国販売網の強化
生産性向上・コスト 管理による営業 利益増	事業基盤整備 事業構造改革 製造損益改善				事業基盤の見直し 海外固定費最適化 品質管理、コストダウン、 調達、サプライチェーンエクセレンス
	オペレーションの最適化 開発体制見直し 業務効率改善 等				販売会社体制等の最適化 業務効率の継続的な改善
2025 営業利益計画				395	ROS 6.7% 2.4% 売上伸長率 +3%

グローバルサービス事業改革

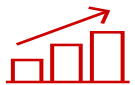
サービスソリューション提供の加速/オペレーション効率化の追求

“Made for life” に込められた理念のもと、各地域の医療の現場で医療機器を安定かつ安心してお使い頂けるよう品質向上、機能・性能の最適化といったより良いサービスソリューションの提供を更に加速させ、お客様サイトにおけるダウンタイムのミニマム化を実現していきます。同時にDX化などを通してオペレーション改善を追求しサービス利益の増出も目指していきます。



高い顧客満足度

- 品質向上、DX化によるリモートサービスソリューションを強化、据付・点検・修理の効率化



高い市場シェア・収益性

- 顧客の資産価値を向上させるサービス提供（SLA/サービスソリューションの上市）



経営資源の最適化

- 中央集約型オペレーションへの転換



- フォトンカウンティングCT
- 2025年度末市場投入予定
- 日米欧4か所の有力サイトで評価中

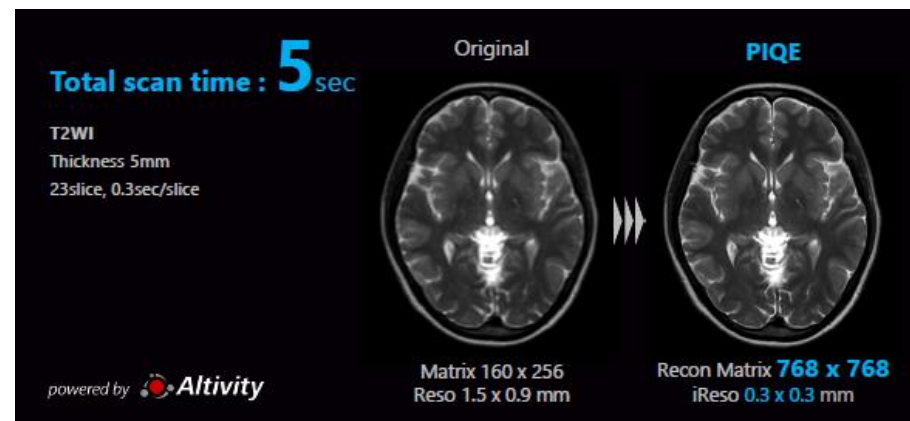
- 立位CT製品化
- 更なる臨床価値の向上
 - ✓ キヤノンEXPO展示



- 検査の更なる効率化
- AIを活用した自動化技術の強化・拡大
- 操作性に寄与する様々なソリューション
 - ✓ 読影支援ソリューション
 - ✓ 急性期医療情報統合ビューア
 - ✓ リモートオペレーション



- 3テスラ MRI
- AI技術を活かすためにハードウェアを一新
- シーケンスフレキシビリティの向上



- 超解像DLR「PIQE ※1」による高精細化と撮像時間短縮を両立

※1 Precise IQ Engine

製品力強化 超音波／X線システム

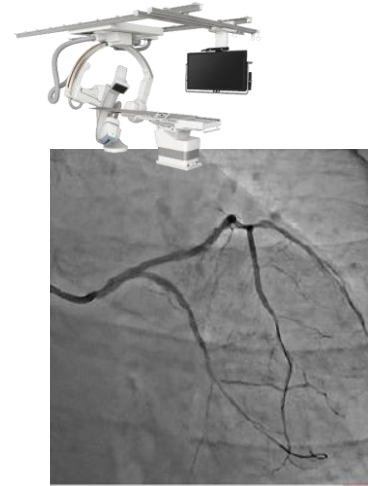


- 診断領域の拡大
(消化管領域、他社連携強化)
- 組み込み型内視鏡超音波



- POCUS ※¹ 領域への拡大
- Eコマース活用

- ブレスト領域への拡大
- QT Imaging社 Breast Acoustic CT scannerの転売
- 米国NXC※²を中心に販売展開



- AIを活用した画像処理
- グローバル展開（米国向けプロモーション開始予定）



- NRT社※³ 製品拡販
- 多目的DRシステム
- 静止画DRシステムから動画システムへ

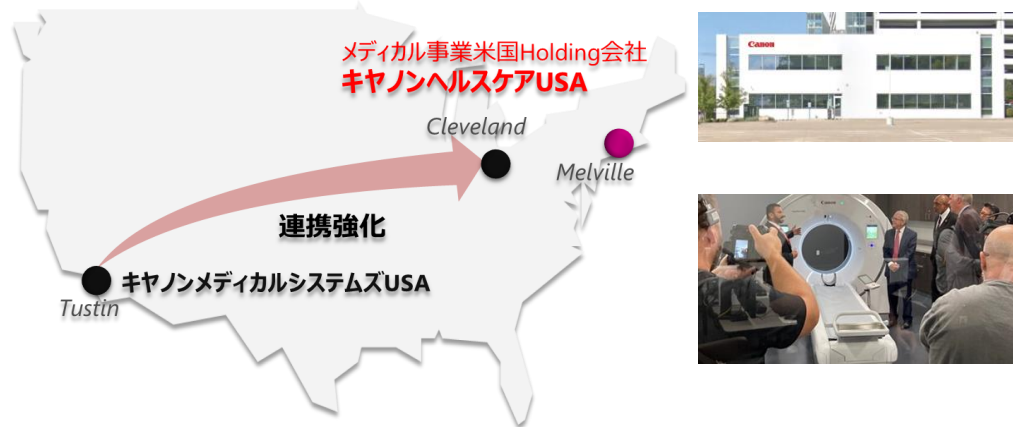
※¹ Point of Care Ultrasound

※² Canon Medical Systems USA子会社 NXCイメージング社

※³ デンマーク NORDISK RØNTGEN TEKNIK A/S (NRT社)

Clevelandに集結したPlatformをベースに、新領域製品やA Iアプリを活用し、販売力の更なる強化・拡大

アップストリームマーケティング

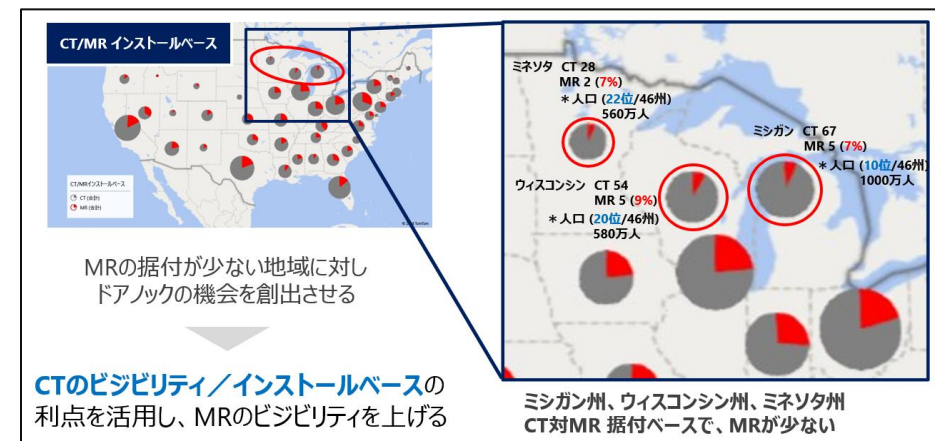


ダウンストリームマーケティング

- 米国KOLネットワークの更なる拡大



- キヤノンメディカルアカデミーからグローバルに発信
- 放射線領域から専科への拡大
- CTのインストールベースを活用した営業展開



日米欧にトレーニングセンター「キヤノンメディカルアカデミー」を開設

本社管理のもと、最新情報をセンタライズ化し、商談ケースに応じた適切な情報をタイムリーに提供



インド現法設立



- ・ 現法設立（法人登記） 2022/12月
- ・ 販売ライセンス取得 2023/6月
- ・ 輸入ライセンス取得 2025/1月までに全法規対応完了

サウジアラビア現法設立

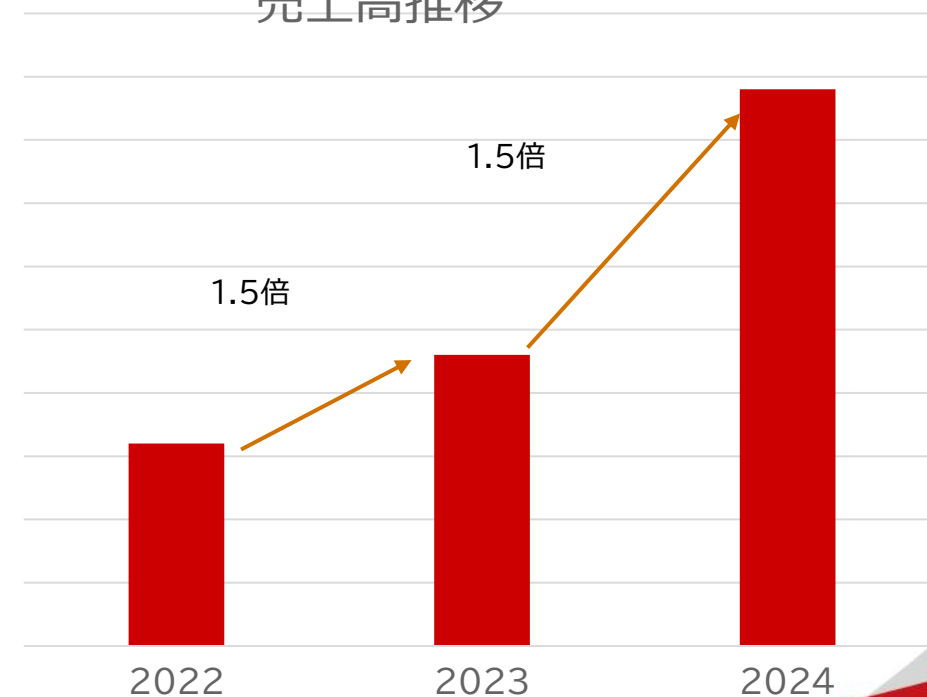


- ・ キヤノンブランド販売プロモーションを展開し、大型グループ商談の対応強化
- ・ 政府連携による国公立の一括入札への参加

直近の中東開催のイベント参加状況

- ・ AOCR 2025（アジア・オセアニア放射線学会）
- ・ アラブヘルス2025
- ・ 日本政府の中東湾岸訪問に同行（ビジネスフォーラム・レセプション参加）

売上高推移



SCM改革WG

SCM(調達・生産・物流)体制・プロセスの改革 生産性の向上、品質改善・原価低減

キヤノンの技術と品質管理やコストダウンのノウハウを最大限活用

- **調達改革** 本社との調達機能の統合
 - ・ 最適調達の徹底追及
 - ・ キヤノン流のお取引先との協業や連携による原価低減・品質改善
- **生産改革** キヤノンの生産技術/現場ノウハウをフル活用する体制と実行
 - ・ 自動化・内製化・省人化の徹底推進
 - ・ あらゆる工程の生産性・歩留まり向上
 - ・ 構内レイアウトの刷新 および ものづくり動線の効率化と省スペース化の推進
- **物流改革** 本社との物流機能の統合
 - ・ 国内・海外・輸出入・構内・倉庫等すべての物流の最適化
 - ・ 最適物流コストの徹底追及

開発改革WG

開発体制・プロセスの改革
開発効率の向上、製品競争力の強化
キヤノン人材のメディカル事業部門での活用

キヤノンの開発プロセスの導入やキヤノン人材の活用を通して、開発の質と効率を徹底強化

■ 開発体制強化 WG

- キヤノン本社と連携した新たな開発体制の構築
- グローバル開発体制の再構築
各開発拠点の特徴を活かしたグローバル開発体制の再構築

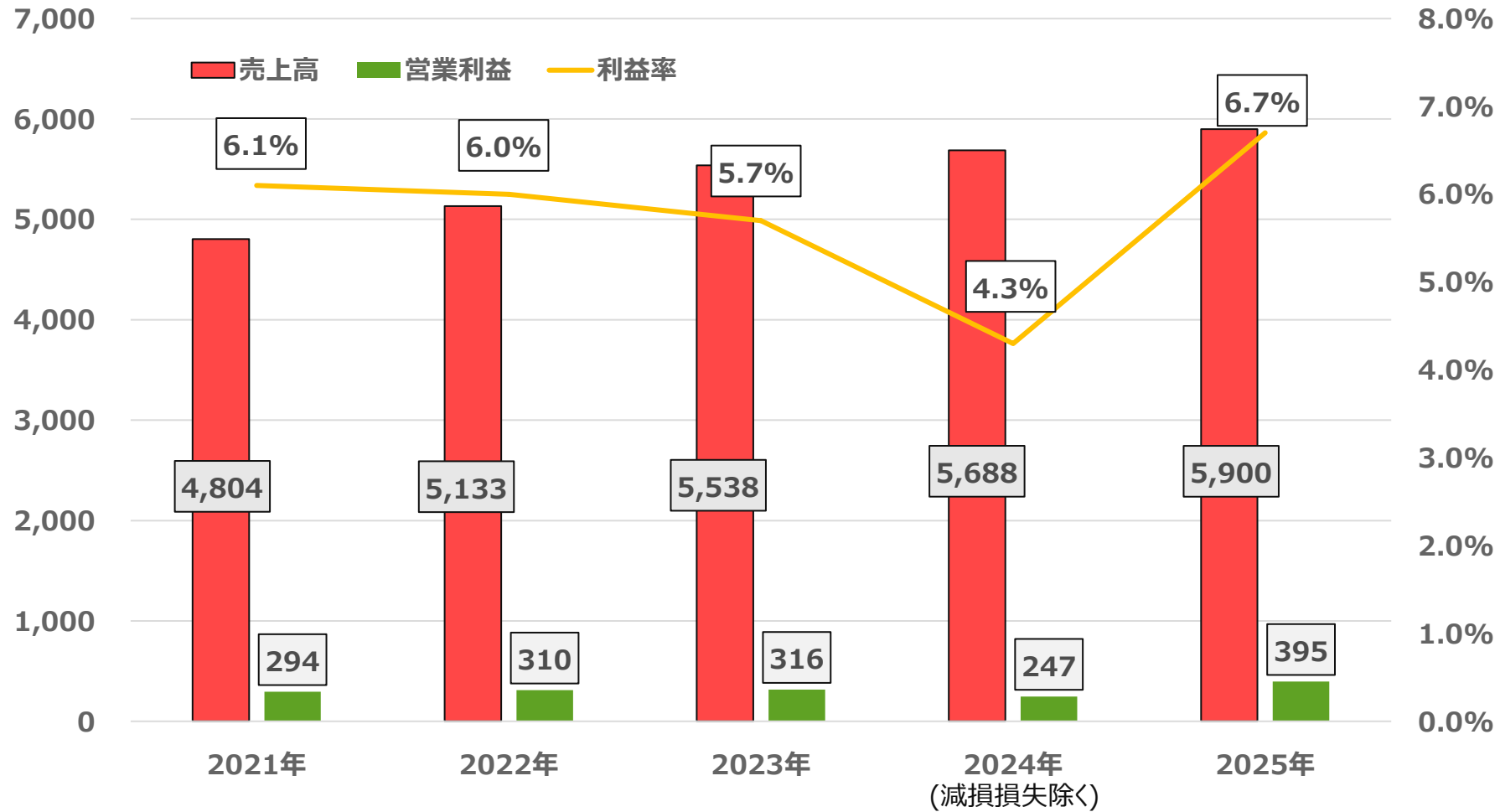
■ 開発内製化推進 WG

- ハードおよびソフト開発の内製化推進
- 内製化による開発品質の向上と外部流出コスト削減

メディカル PL推移

売上高(億円)

利益率



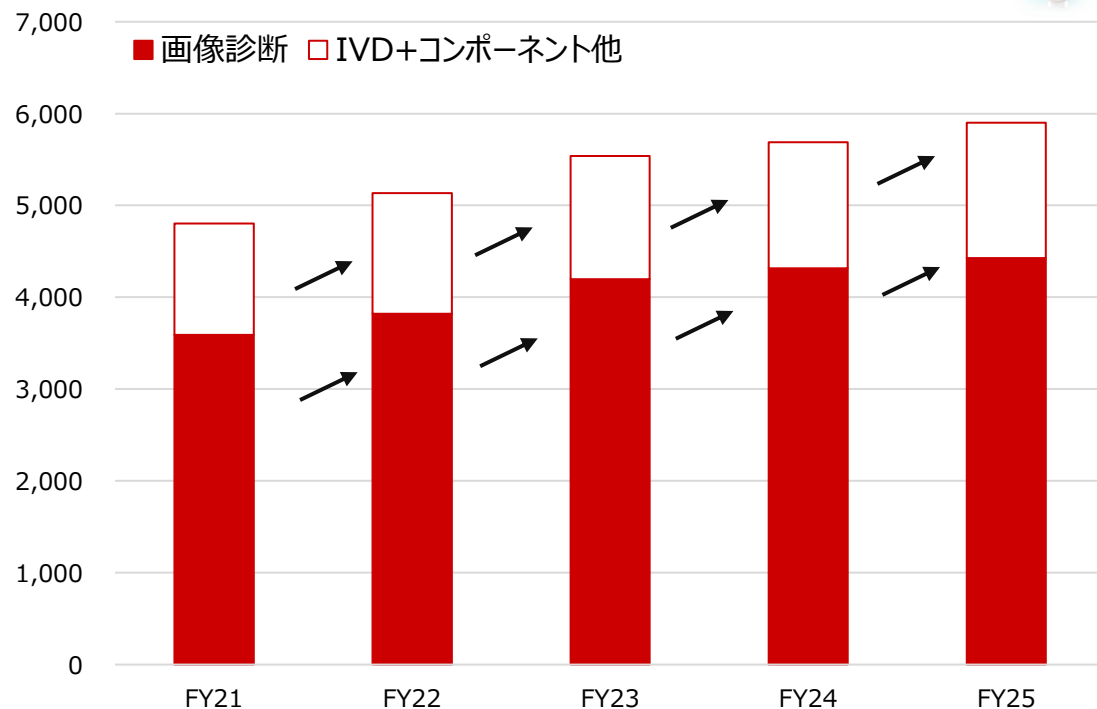
モダリティ別・地域別 実績推移

画像診断

IVD・コンポーネント

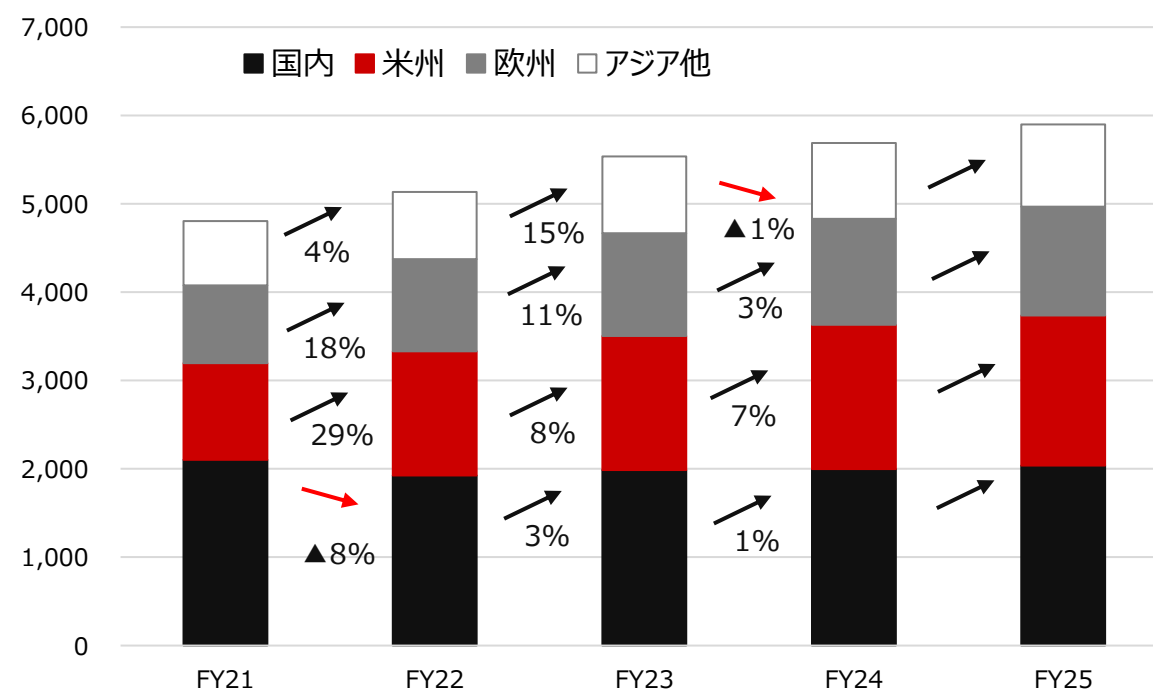


単位：億円



主要現地法人15社、90代理店による販売網で世界190以上の国や地域で医療現場に寄り添いながら成長を続けています。

単位：億円



本日の内容

1. キヤノンにおけるメディカル事業の位置づけ
2. 環境認識
3. 2025年収益性改善の見通し
- 4. 2026年以降の取り組み・戦略**

今後の成長に向けた主な取り組み

- イノベーションの推進
 - ✓ PCCT／成長を牽引する新製品投入
 - ✓ AI技術等を活用した画像診断支援やワークフロー効率化
- ポートフォリオマネジメント強化・事業拡充
 - ✓ IVD事業
- オペレーション・エクセレンス
 - ✓ メディカル革新委員会活動の成果刈り取り

Canon PCCT研究用システム：グローバル研究とゴール

- 『Global No.1の最高画質と低被ばく』の実現に向け、早期の実証研究を推進中
- 製品版投入に向けてグローバルに「マーケット」と「アカデミック」に対し、Canon PCCT技術への認知度と期待感を最大化
- Redlen社製検出器やディープ・ラーニング再構成技術の早期臨床評価により、製品/サービスの「価値」を高める取り組みを推進
- 各施設の得意な臨床領域にフォーカスし、日欧米からグローバルに広範な臨床価値を発信する



ペンシルベニア大学

November 27, 2024

キヤノンがフォトンカウンティングCTの実現に向けて米国ペンシルベニア大学のPenn Medicineと共同研究を開始

キヤノン株式会社、キヤノンメディカルシステムズ株式会社、Canon Healthcare USA, Inc.は、米国ペンシルベニア大学系列の医療グループ「Penn Medicine」*1と、次世代のX線CTとして期待されるフォトンカウンティングCT（以下PCCT）の早期実現を目指し、共同研究を開始しました。ペンシルベニア大学病院に、世界で4台目となるキヤノンの装置を設置し、臨床現場における研究を進めます。特に胸部や心臓、骨密度測定などにおける画像診断の専門分野を中心テーマとして、PCCTの可能性を開拓します。



Penn Medicineの研究者

<https://jp.medical.canon/News/PressRelease/Detail/158007-834>



ラドバウド大学

February 26, 2024

ラドバウド大学メディカルセンターとフォトンカウンティングCTの臨床研究を開始

キヤノンメディカルシステムズ株式会社（代表取締役社長：瀧口 登志夫、本社：栃木県大田原市）は、ラドバウド大学メディカルセンター（Radboud University Medical Center, Chair, Dr. Bertine Lahuis、所在地：オランダ ナイメーヘン）と次世代のX線CTとして期待されるフォトンカウンティングCT（以下PCCT）の、世界で2台目となる当社装置を用いた臨床研究を1月下旬より開始しました。



マティス プロコップ教授（左側）と研究者



ラドバウド大学メディカルセンター

<https://jp.medical.canon/News/PressRelease/Detail/147339-834>



広島大学

April 8, 2024

広島大学とフォトンカウンティングCTでの臨床研究を開始

キヤノンメディカルシステムズ株式会社（代表取締役社長：瀧口 登志夫、本社：栃木県大田原市）は、広島大学（学長：越智光夫、所在地：広島県東広島市）と次世代のX線CTとして期待されるフォトンカウンティングCT（以下PCCT）の早期実用化を目指し、世界で3台目となる当社装置を用いた臨床研究を開始しました。

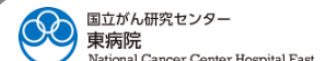


栗村教授（左から第3）と研究者の先生方



広島大学病院

<https://jp.medical.canon/News/PressRelease/Detail/149822-834>



国立がん研究センター ／ 先端医療開発センター

国産初 フォトンカウンティング検出器搭載型X線CTを国立がん研究センター先端医療開発センターに設置

キヤノン株式会社（以下、キヤノン）は昨年、半導体検出器モジュールの開発・製造において世界トップクラスの技術を持つレドレン・テクノロジーズ社（以下、レドレン）を買収しました^{*1}。このたびグループ会社であるキヤノンメディカルシステムズ株式会社（以下、キヤノンメディカル）が、国産としては初めて^{*2}、レドレンの技術を生かしたフォトンカウンティング検出器搭載のX線CT^{*3}（フォトンカウンティングCT、以下PCCT）を開発し、国立研究開発法人国立がん研究センター先端医療開発センター（以下、国立がん研究センター先端医療開発センター）に設置されました。これにより、今後の実用化に向けた研究が開始されています。

PCCTには、レドレンの検出器材料を生産する結晶製造/加工技術を生かした、高品質な最新のモジュラー型フォトンカウンティング検出器が搭載されています。モジュラー型とすることで、検出器サイズの拡張や、製造、サービスコストの低減が可能となります。これにより、あらゆる臨床ニーズに対応した検査が実現可能となることが期待されます。



国立がん研究センター東病棟の研究者



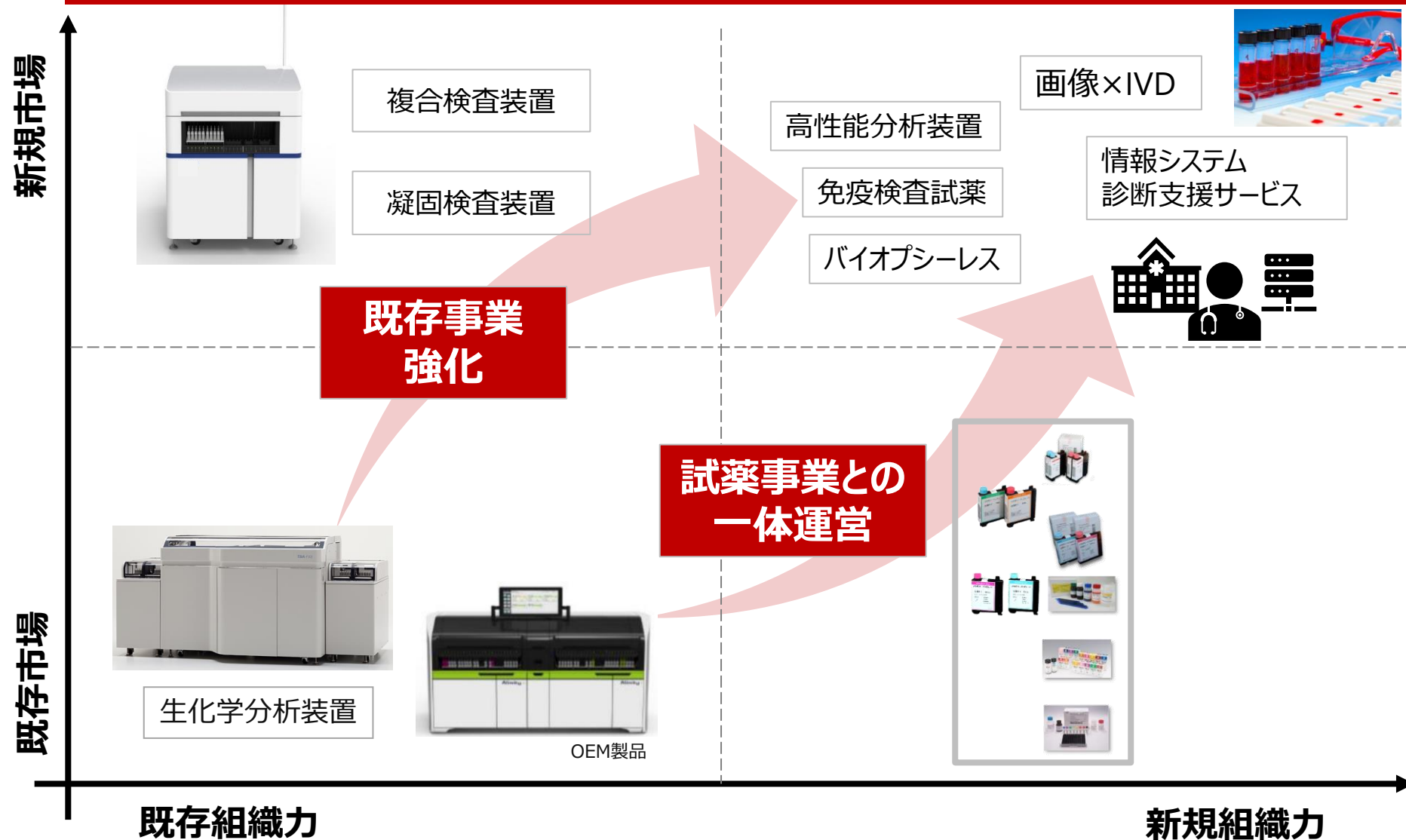
撮影イメージ

<https://jp.medical.canon/News/PressRelease/Detail/123600-834>

Collaborative imaging with AI



既存事業を更に強化すると共に、隣接事業領域へ展開



オペレーション・エクセレンス

“キヤノン流”への経営方針の転換

■ メディカル革新委員会活動の成果の刈り取り

- (1) 事業基盤整備
- (2) 生産・開発力強化

■ 事業基盤整備

● 事業本部機能確立・ガバナンス体制強化

- ✓開発、生産、管理部門のキヤノンとの一体化の更なる推進
- ✓キヤノン本体リソースの全面的投入
- ✓ガバナンス体制の強化

■ 生産・開発力強化

● 開発と生産の連携によるQCD改善、製品競争力強化

- ✓キヤノンの開発及び生産プロセスの導入と早期の効果実現
- ✓コア技術の内製化推進
- ✓キヤノン流のものづくりの実現

メディカルグループの目指す方向 ～プレジジョン・メディシンへの貢献～

現在の事業参入領域

検査・診断

体外診断・バイオ

検体検査



各種試薬



病理診断

リキッドバイオプシ

遺伝子検査

再生医療



収集・統合



加工・提供

診療支援システム

読影支援システム

融合

進化の軸

AI

誰でも簡単に、素早く、よりきれいに

形態診断

動態診断

機能診断

次世代画像診断機器
PCCT



発展の軸

AI

立位CT



CT：超高精細胸部画像

CT：心臓動態画像

MR：脳神経走行画像

画像診断・ヘルスケアIT

事業拡大領域

個別化医療をサポートする
ソリューション

Clinical Decision
Support の実現

ビックデータ解析

クラウドプラットフォーム

遠隔診断サポート

自家iPS細胞の製造

再生医療プラットフォーム



プレジジョン・メディシン

個別化医療

- ・ 投薬治療
- ・ 外科治療
- ・ 細胞治療
- ・ 再生医療

A close-up photograph of two hands, one larger and one smaller, holding each other. The background is a bright, out-of-focus sunset or sunrise with warm orange and yellow light. The hands are positioned in the center-right of the frame, with the larger hand on the left and the smaller hand on the right.

経営スローガン

Made For life

患者さんのために、
あなたのために、
そして、ともに歩むために。